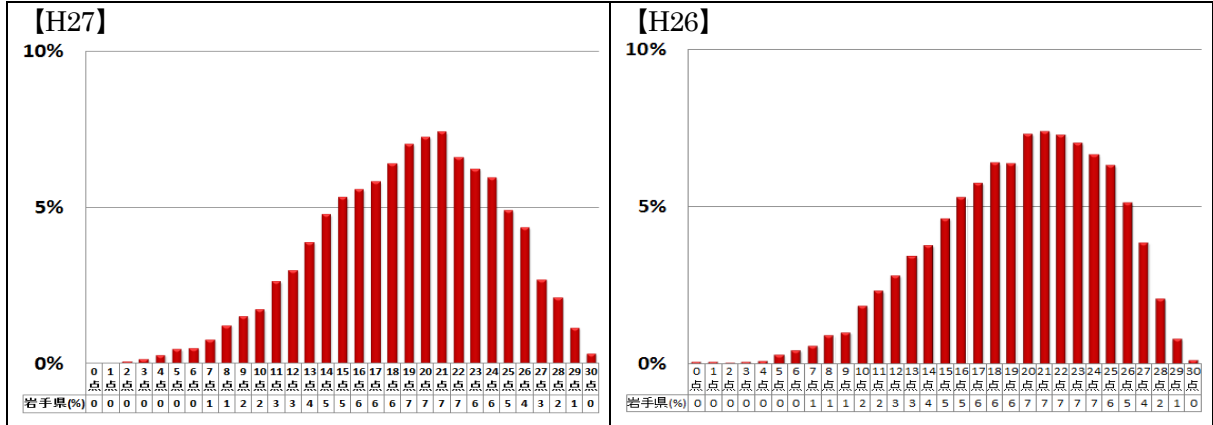


授業改善の手引 小学校第 5 学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 21 問、平均正答数は 18 問です。昨年度の分布と比較して山が左に移動しています。また、平均正答数が 15 問以下の児童が全体の 31% となっており、この層に属する児童へのきめ細やかな指導が引き続き必要です。正答数 16～23 問の層の児童が全体の約半数を占めており、この層に属する児童への指導の工夫が重要です。
(正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率 () は H26, < > は H25		
	話すこと・聞くこと (6 問)	71%	(59%)
書くこと (2 問)	54%	(59%)	<69%
読むこと (10 問)	54%	(55%)	<64%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (12 問)	67%	(78%)	<82%
活用	54%	(48%)	<44%

(3) 結果概要

- 領域ごとの正答率を比較すると、話すこと・聞くことについて昨年度を上回りました。正答率も 71% とよい傾向にあります。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項においては、「理解するために必要な語句」について、辞書を利用して調べる」問題や「文脈に沿って、語句を適切に使う」問題の正答率が向上するなど、よい状況にあります。
- 活用に関する問題「話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く」は正答率 82% であり、よい状況にあります。
- 「読むこと」の領域「場面の描写と登場人物の心情を読む」と「段落相互の関係を捉える」問題の正答率は低い傾向にあり、依然として課題が継続しています。
- 活用を意識した問題においては、「目的や必要に応じて、文章の内容を要約する」が正答率 30%、「目的に応じて理由を挙げて意見を書く」は正答率 46% と指導の工夫が必要です。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マウスを表す)

小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較
●11 (伝国)	74	0	●19 (読)	55	▲3
○12 (伝国)	81	8	●27 (読)	55	▲5
●16 (伝国)	23	▲31	●30 (書)	46	▲6

- 小問 12 は正答率が 8 ポイント以上向上するなど、改善傾向が見られましたが、引き続き注視が必要です。
- それ以外的小問については、依然として課題が継続している状況です。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)						
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞		95	3	95	0	1	1		0
	(2)	2		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用	83					16	83	1
	(3)	3		話し合いにおける司会の役割がわかる。	第5・6学年「話・聞」(1)オ	話・聞		73	5	13	8	73	0		0
2	(1)	4		目的に応じて、間の取り方を考えながら発表する。	第3・4学年「話・聞」(1)ウ	話・聞		61	9	61	20	9	1		1
	(2)	5		目的に応じて、分かりやすい図を用いながら発表する。	第5・6学年「話・聞」(1)イ	話・聞		74	1	19	74	6	1		1
	(3)	6		目的に応じて、収集した情報を明確に伝える。	第5・6学年「話・聞」(1)アイ	話・聞	活用	46					50	46	4
3	(1)	①	7	第4学年配当漢字「票」を正しく読む。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		87					10	87	3
		②	8	第4学年配当漢字「健康」を正しく読む。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		99					1	99	0
	(2)	①	9	第4学年配当漢字「覚える」を正しく書く。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		72					21	72	8
		②	10	第4学年配当漢字「連続」を正しく書く。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		69					26	69	5
	(3)	ア	11	理解するために必要な語句について、辞書を利用して調べる。(漢字辞典、部首・画数)	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ウ)	伝国	経年	75					22	75	4
		イ	12		第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ウ)	伝国	経年	81					13	81	6
	(4)	①	13	文脈に沿って、語句を適切に使う。(対義語)	第3・4学年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		94	1	1	0	94	3		0
		②	14	文脈に沿って、語句を適切に使う。(対義語)	第3・4学年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		94	1	94	1	1	4		0
	(5)	15		漢字の由来、特質について理解する。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		51	51	35	10	3	1		1
	(6)	16		文の構成について理解する。(修飾語)	第3・4学年「伝国」(1)イ(キ)	伝国	経年	23	7	19	49	23	1		0
(7)	17		ことわざの意味や使い方を理解する。	第3・4学年「伝国」(1)ア(イ)	伝国		55	19	12	13	55	0		1	
(8)	18		文脈に沿って、漢字を適切に使う。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		14					56	14	30	
4	(1)	19		場面の移り変わりを読む。	第3・4学年「読」(1)ウ	読	経年	55	22	55	9	12	1		1
	(2)	20		叙述を基に登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		72	11	15	72	3	0		0
	(3)	21		叙述を基に登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		45	5	45	36	14	1		1
	(4)	22		叙述を基に場面の描写と登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読		20					56	20	24
	(5)	23		叙述を基に場面の描写と登場人物の心情を読む。	第5・6学年「読」(1)エ	読	活用	64	7	13	10	64	2		3
5	(1)	24		文と文のつながりを捉えて読む。	第3・4学年「読」(1)イ	読		70	3	70	5	18	1		2
	(2)	25		文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		73	6	8	73	10	0		3
	(3)	26		文章の内容を的確に押さえて読む。	第5・6学年「読」(1)ウ	読		57					30	57	13
	(4)	27		段落相互の関係を捉える。	第3・4学年「読」(1)イ	読	経年	56	14	13	11	56	2		5
	(5)	28		目的や必要に応じて、文章の内容を要約する。	第3・4学年「読」(1)エ	読	活用	30					48	30	22
6	(1)	29		段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。	第3・4学年「書」(1)イ	書		61					23	61	16
	(2)	30		目的に応じて理由を挙げて意見を書く。	第3・4学年「書」(1)ウ	書	経年活用	47					36	47	18
全体正答率								63							

2 指導のポイント

- (1) 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書く言語活動を通して、複数の資料を比較し関連付けながら、考えの理由や根拠を明確に表現させましょう。

ア 問題の概要 【(2) 経年比較・活用問題】

6	(1) 段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く。 第3・4学年「書」(1)イ	正答率61%
	(2) 目的に応じて理由を挙げて書く。 第3・4学年「書」(1)ウ	正答率46%

イ 誤答分析

- (ア) 誤答率は、(1) 22%、(2) 35%でした。誤答の多くは、(1)「指定された段落構成で書くことができなかったもの」、(2)「改善案を書くことができなかったもの」、「ちがう方法の短所を書いたもの」でした。
- (イ) この問題では、「二段落構成で文章を書くこと」と「自分が選んだ方法の理由を長所とその方法の短所の改善案を書くこと」が求められます。つまずきの原因として、表現様式や条件に合わせて自分の考えを書く経験や、目的に応じて資料を比較したり関連付けたりする経験が不足していることが考えられます。
- (ウ) 無解答率は(2) 17%でした。平成25年度(12%)、平成26年度(9%)の無解答率と比較して、依然として無解答の多さが目立ち、課題が残っていることを示しています。

ウ 指導上の留意点 【関連問題(3) 中2-6】

- (ア) 自分の考えを書く際の構成や文字数等の条件は、書く目的や意図、そして表現様式によって変わってきます。ですから、目的や条件に応じて、文章の構成を考える力を意図的に育てていく必要があります。構成の指導の系統性をふまえ、分かったことや考えたことをまとめる際には、必要な目的や条件を設定したり、モデルを示したりして、文章を書くように指導することが大切です。
- (イ) 複数の資料を比較したり関連付けたりしながら考えの理由や根拠を書く力を付けさせるために、例えば「事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書く言語活動」を通して指導すると効果的です。自分が薦めたいと思う事物のよさを多くの人に伝えるためには、単によさの羅列で終始するのではなく、裏付けとなる確かな理由や根拠が必要となります。ですから、複数の資料を比較し関連付けながら、理由や根拠を明確にさせて指導していきましょう。

- (2) 場面の描写と登場人物の様子や心情を捉え、表現の仕方と結び付けて読む学習活動を充実させましょう。

ア 問題の概要

4	(4) 叙述を基に場面の描写と登場人物の心情を読む。 第5・6学年「読」(1)エ	正答率19%
---	--	--------

イ 誤答分析

- (ア) 無解答率は24%、誤答率は56%でした。誤答を見てみると、「今日のおすすめ」などと問題文の言葉をそのまま書き抜いたものと、「工夫を楽しんでいる」とパンの発明に対する思いを書き抜いたもの大きく二つに分かれました。
- (イ) この問題は、パンの発明と具体的なパンの表現を結び付けて、父親のパン作りへのこだわりの心情を捉えて読むことができているかを確認するものです。
- (ウ) 正答率の低さや誤答傾向から、登場人物の行動や表情、会話などの表現に着目して場面の描写を捉える力に課題があることが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-4(2)】

- (ア) 高学年では、登場人物の相互関係から人物像やその役割と内面にある深い心情を合わせて扱う必要があります。登場人物の心情は、行動や会話など直接的に描写されている場合だけではなく、登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に示されている表現にも着目するように指導することが大切です。
- (イ) 表現の仕方に着目して読む言語活動を設定して、象徴性や暗示性の高い表現や内容に気付くように、表現の仕方に着目させて指導していきましょう。「表現の仕方」は、心に残った一つの場面の一つの叙述のみを取り上げただけでは捉えることはできません。場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の相互関係を押さえ、その内面にある深い心情と表現とを結び付けることによって捉えることができます。

(3) 目的や必要に応じて、文章の内容を要約する学習活動を位置付けましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

5	(5) 目的や必要に応じて、文章の内容を要約する。 第3・4学年「読」(1)エ	正答率30%
---	---	--------

イ 誤答分析

- (ア) 誤答率は48%でした。誤答を分析すると、「温暖化が与えた影響ではなく筆者の意見を書いた内容のもの」と「メモとポスターを関連付けて考えることができなかつた内容のもの」が多く見られました。
- (イ) この問題では、環境の大切さを伝えるポスターを作るために、温暖化が農業に与える影響について述べてある段落を見つけ、その中から農作物が減ってしまう2つの変化を短くまとめることが求められます。
- (ウ) 無解答率の21%であり、「段落相互の関係を捉える力」や「目的や必要に応じて要約する力」に課題が見られることが伺えます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-5(3)】

- (ア) 「要約」の指導に当たって大事にしたいことは、「目的や必要に応じて」短くまとめることです。まず、「本の大好きなところを紹介するために」、「自分の課題を解決し報告するために」など、要約する目的を明らかにします。次に、分量や時間、元の文章の構成や表現の生かし方などを考えます。そして、文章の中心となる大事な事柄や、読み手の考えや感想の理由、事例として挙げられている事実、人物や情景の描写などの表現の細かい点に気を付けながら、目的や必要に応じて要約できるよう、指導事項に基づいた適切な言語活動を通して指導していきましょう。

【目的や必要に応じて、要約する学習活動を位置付けた展開例】

教材例 島村英紀「地球環境のしくみ」より（平成27年岩手県小学校学習定着度状況調査⁵⁾）

第一次

- ① 「環境に関する文章を読み、環境の大切さを地域の人にポスターで伝える」という言語活動を設定する。

第二次

- ② 「地球環境のしくみ」を読み、筆者の事実や意見を捉え、温暖化について自分の伝えたいことを明確にする。

- ③ 温暖化について自分の伝えたいこと（自分にとって必要な事実や意見）が、どこにどのように書かれているか見付けながら読む。

- ④ 温暖化について伝えたい事実や意見を、ポスターの表現様式に応じて要約する。

〈植物に着目した中川さんの場合〉

- ・ 成長のおそい植物は、気温の移動に追いつかない
- ・ その場所では、絶える
→ 大半の植物が減る



〈農業に着目した谷田さんの場合〉

- ・ 育てられる作物の種類や収穫量が変わる
- ・ 病害虫が発生
しやすくなる
→ 農作物の生産が減る



何を伝えたいかによって、文章のどの部分を取り上げるかが変わってきますね。



環境に関する意見文や解説文を並行読書

第三次

- ⑤ 並行読書の中から、自分が調べた環境の大切さについて要約し、ポスターに表現する。

- ⑥ ポスターを学級の友達と紹介し合い、感想を交流する。